

倶多楽の火山活動解説資料（平成25年2月）

札幌管区气象台
火山監視・情報センター

火山活動に特段の変化はなく、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められません。
平成19年12月1日に噴火予報（平常）を発表しました。その後、予報警報事項に変更はありません。

○ 活動概況

・ 噴気などの表面現象の状況（図1-①、図2～5）

日和山山頂爆裂火口の噴気の高さは火口縁上概ね50m以下で、噴気活動は低調に経過しました。

15日及び20日に現地調査を実施しました。大湯沼北方噴気孔群の一番勢いのある噴気孔からは、1月28日の現地調査時と同様に「シュー」というやや大きな噴気音を伴い高さ50m程度の噴気が上がっていました。大湯沼のその他の状況には特段の変化はありませんでした。

・ 地震及び微動の発生状況（図1-②）

火山性地震は観測されず、地震活動は低調に経過しました。

火山性微動は観測されませんでした。

・ 地殻変動の状況（図1-③）

GPS連続観測では、火山活動によると考えられる地殻変動は認められませんでした。

この火山活動解説資料は札幌管区气象台のホームページ(<http://www.jma-net.go.jp/sapporo/>)や気象庁のホームページ(<http://www.seisvol.kishou.go.jp/tokyo/volcano.html>)でも閲覧することができます。

※資料は気象庁のほか、国土地理院及び北海道大学のデータも利用して作成しています。

資料中の地図の作成に当たっては、国土地理院長の承認を得て、同院発行の『数値地図50mメッシュ（標高）』を使用しています（承認番号 平23情使、第467号）。また、同院発行の『数値地図25000（地図画像）』を複製しています（承認番号 平23情復、第492号）。

次回の火山活動解説資料（平成25年3月分）は平成25年4月8日に発表する予定です。



図 1※ 倶多楽 火山活動経過図（2007年 1 月～2013年 2 月）、GPS連続観測点配置図

- ・③のGPS基線は右図に対応しています
- ・（国）：国土地理院



図 2 倶多楽 周辺図及び写真の撮影方向（矢印）



図 3 倶多楽 大湯沼及び日火山の状況
南南東側（図 2-①）から撮影



図 4 倶多楽 大湯沼北方噴気孔群の状況
南東側（図 2-②）から撮影



図5 倶多楽 日和山、大湯沼及び地獄谷周辺の状況
（2月25日、414m山遠望カメラによる）

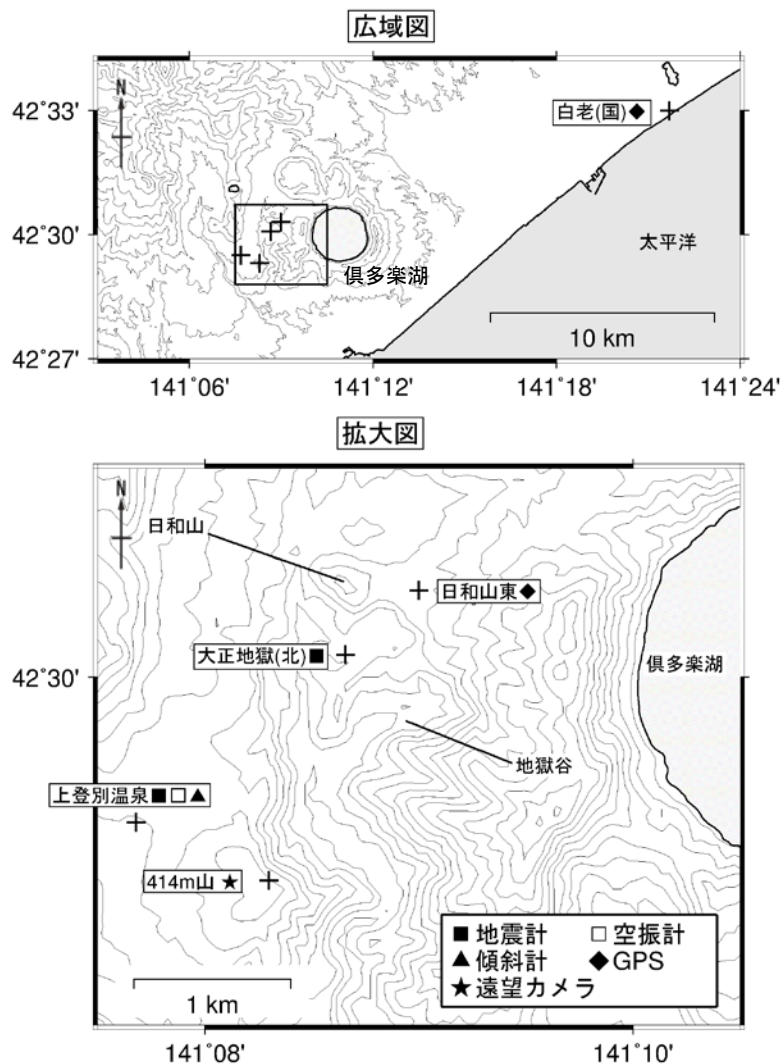


図6 倶多楽 観測点配置図

広域図内の口は拡大図の範囲を示します

+印は観測点の位置を示します

気象庁以外の機関の観測点には以下の記号を付しています

(国)：国土地理院

(北)：北海道大学